

[発見！お魚調査隊 2008]

1) はじめに

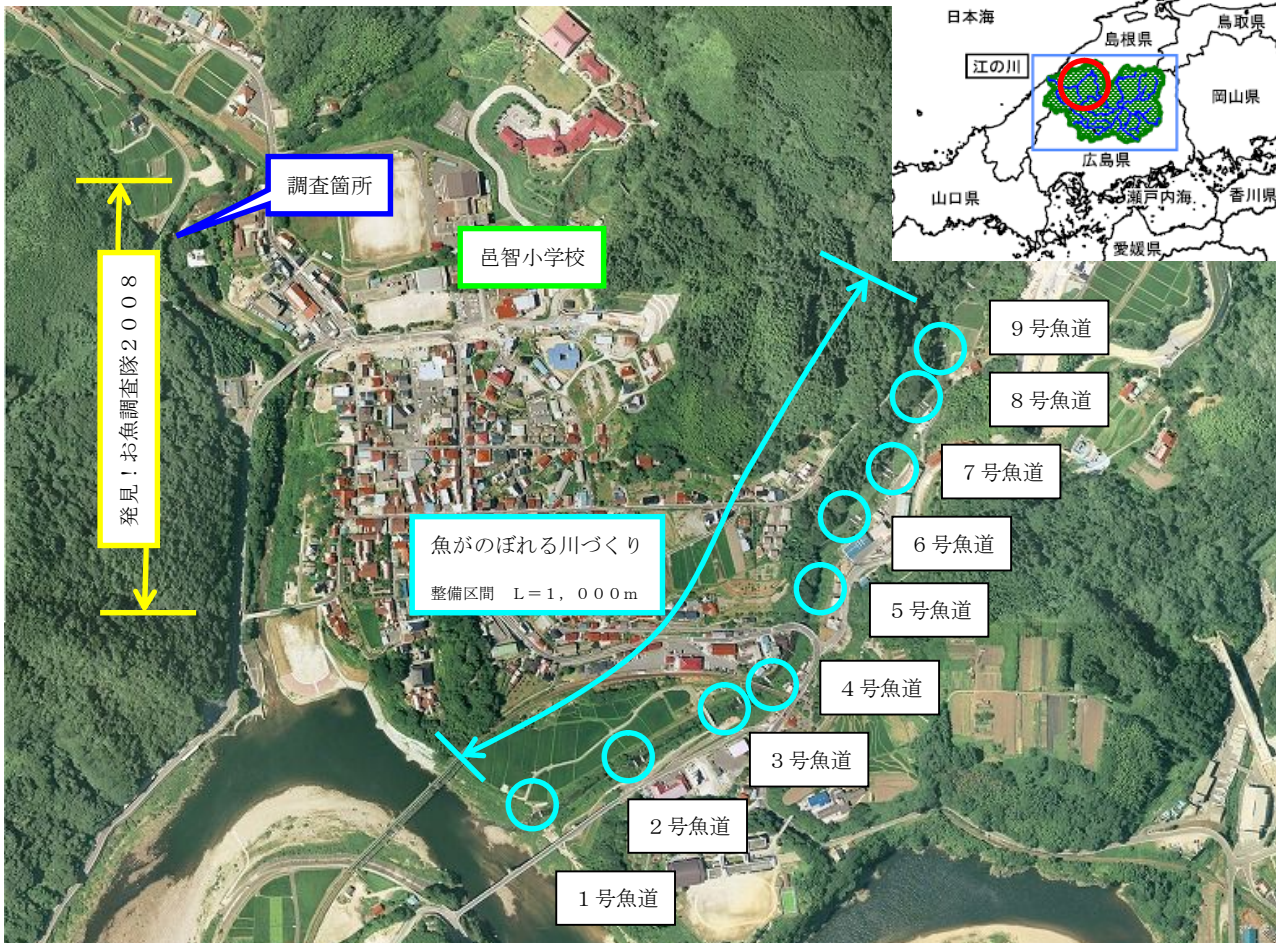
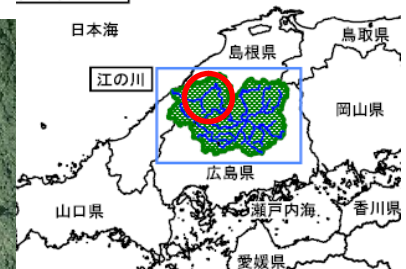
お魚調査隊は、江川漁業協同組合と地元呂智小学校の協力を得て平成13年度に結成し、身近な川を遊び場や憩いの場として再発見してもらい、また、川の状態を知ってもらうことを目的として結成されました。

平成13年度の第1回から平成17年度の第5回までは、美郷町の中心部を流れる江の川支川の早水川において設置した魚道の効果を検証するための追跡調査を実施しました。

早水川は、流域の地質が火山性堆積物であることから土砂の流出が激しく、災害の発生も多かったため、昭和30から40年代に砂防ダム、落差工が整備されました。このため、生態系が分断され、魚がのぼれない川になってしまいました。これを解消すべく、江の川の合流点から1kmの区間を「魚がのぼれる川づくり」のモデル区間と位置づけ平成12年度から平成16年度にかけて9つの落差工それぞれに魚道を設置しました。魚道は下流から整備し、設置効果を検証するための追跡調査を行い、その結果に基づき魚道の改良も加えながら順次上流へ整備・調査を行ってきました。この調査の結果、魚道を設置する前には見られなかったアユやウグイ等の魚が魚道上流に遡上していることが確認されました。

今回は、呂智小学校4年生の生徒29名を中心にお魚調査隊を結成し、美郷町都賀行公民館の振井館長の指導をうけながら、9月4日(木)、5日(金)の2日間にわたりペットボトルで作ったしかけを用いて尻無川における魚類の生息調査を行いました。また、川の自然度体験としてCODパックテストによる水質調査を行い川の環境を考えてもらう機会を設けました。その模様についてはこのあと写真を中心に紹介したいと思います。

位置図



9月4日(木)



振井館長に魚の習性やペットボトルのしかけの仕組み、
作り方を教わりながらしかけを作る子供達。

ペットボトルの先端から1/3の所を切り取り、切り取っ
た部分を逆さに取り付けます。



底にハンダごてで水抜き用の穴をあけて……。

好きな絵を描いたらできあがりです。





川に入る前に振井館長からしかけのつけ方の説明。

魚の餌となるサナギの粉と米めか、酒粕をしかけに入れます。どの餌が一番採れるか実験です。



魚の習性を考えながらしかけをつけるポイントを探します。上流と下流、浅いところと深いところ、流れの速いところと遅いところ、どこが一番採れるだろう？



目印の浮きをつけてしかけが流されないように石で押さえて沈めます。あとは一晩待つだけです。



9月5日(金)



一晩明けて、昨日つけたしかけをそっとあげてみます。
大漁を夢に見た子もいたようです。

このとおり、たくさんの魚が見つかりました。



【川の自然度体験】

尻無川の水や生活排水を用いて水質の検査。どんな色の反応が出るか予想してみました。

尻無川の水は水道水と同じくらいきれいであることが
分かりました。





採れた魚を水槽にうつして観察しました。

- ・ カワムツ 11匹
- ・ ハゼ類 1匹
- ・ ヤリタナゴ 21匹
- ・ ハエ 9匹

合計 42 匹

早水川での魚道効果の追跡調査結果報告。



2) おわりに

子供達から「魚がたくさん捕れて楽しかった。」「勉強になった。」との声が聞けて嬉しく思うとともに、我々もこの自然豊かな河川環境を後生に残していく責任を改めて感じました。お魚調査隊を通して川のことを少しでも知ってもらえたら、それが一番の成果だと思います。ご協力いただきましたみなさんありがとうございました。

